

鹿児島県総合教育センター

平成29年度長期研修研究報告書

## 研究主題

自分の思いをより豊かに伝え合う児童の育成を  
図る小学校外国語の授業づくり  
－音声と文字を円滑に接続するための工夫を通して－

霧島市立中津川小学校  
教諭 福 森 一 真

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の構想	
1	研究のねらい	1
2	研究の仮説	2
3	研究の計画（構想図）	2
III	研究の実際	
1	研究主題についての基本的な考え方	2
(1)	自分の思いをより豊かに伝え合う児童について	2
(2)	小学校外国語の授業づくりについて	3
(3)	音声と文字の接続について	4
2	児童の実態	4
(1)	実態調査の概要	4
(2)	分析と考察	4
3	音声と文字を接続する工夫	5
(1)	小学校外国語科における、「読むこと」、「書くこと」の取扱い	5
(2)	多角的語彙習得モデルにおける文字の指導順序	7
(3)	単元における文字指導の順序	7
(4)	検証授業における文字指導の視点	8
4	検証授業Ⅰの実際と考察	9
(1)	検証授業Ⅰのねらい	9
(2)	検証授業Ⅰにおける視点と手立て	9
(3)	検証授業Ⅰの実際	9
(4)	授業の実際：第2時	11
(5)	授業の実際：長時間（第4時）	13
(6)	検証授業Ⅰ後の児童の変容	15
(7)	検証授業Ⅰを通した、自分の思いをより豊かに伝え合う児童の姿	15
5	検証授業Ⅱの実際と考察	16
(1)	検証授業Ⅱのねらい	16
(2)	検証授業Ⅱにおける視点と手立て	16
(3)	検証授業Ⅱの実際	17
(4)	授業の実際：第3時	18
(5)	授業の実際：長時間（第4時）	20
(6)	授業の実際：第5時	21
(7)	検証授業Ⅱ後の児童の変容	23
(8)	検証授業Ⅱを通した、自分の思いをより豊かに伝え合う児童の姿	24
(9)	検証授業を通した児童の感想	24
IV	研究のまとめ	
1	研究の成果	25
(1)	音声と文字の接続について	25
(2)	小学校外国語の授業づくりについて	25
(3)	自分の思いをより豊かに伝え合う児童の育成について	25
2	研究の課題	25

## I 研究主題設定の理由

社会の急速なグローバル化の進展に伴い、外国語によるコミュニケーション能力の向上は、日本の将来にとって極めて重要な課題とされている。現在のところ、英語をはじめとする外国語を日常的に使用する機会は限られている。しかしながら、平成32年の東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、将来は家庭や地域、職場などの様々な場面において、外国語を用いたコミュニケーションを行う機会は格段に増えることが想定される。

平成23年度から小学校第5学年及び第6学年での外国語活動が必修化され、7年目を迎えた。平成28年12月21日の中央教育審議会答申においては、小学校外国語活動の成果が認められると述べられる一方で、改善・充実に向けた課題の一つとして、音声中心で学んだことが、中学校段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないことが指摘されている。そのことを踏まえて、平成29年3月公示の新学習指導要領では、平成32年度から第3学年及び第4学年で外国語活動が、第5学年及び第6学年で外国語科が導入されることとなった。外国語活動で聞くこと、話すことを中心として外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高め、外国語科では、聞くこと、話すことに加え、読むこと、書くことも取り扱う。読むこと、書くことが新たに加わったことにより、英語を学びたいという児童の意欲を維持しつつ、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現と、文字をどのように接続するかが課題であると言える。

これまで本校では、言語や文化について体験的に理解を深めたり外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませたりして、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ってきた。しかし、音声で慣れ親しんだ外国語を、スキットやインタビュー活動など、教室内で友達を相手に、体験的に使ってみる程度までにとどまっているように感じる。活動が単に楽しさを追い求めるものになっており、子供たちになぜ外国語を学ぶのかを十分に理解させることができず、このままでは、児童が心から自分の思いを英語で伝えようという気持ちを高めたり、学んだことを積み上げていったりすることができないのではないかと考えた。

そこで、本研究では、課題解決的な学習過程において、コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にし、見通しをもたせ、目的達成のための言語活動等を行うことで、なぜ外国語を学ぶのかを理解させるとともに、多様な対話の相手の言語や文化等、背景に配慮する態度を養いたい。その上で、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現と、文字との結び付きに気付くことができるような工夫を、児童の発達の段階や学習経験に応じて行っていくことにより、相手に時・場所を越えて正確に伝えたり、相手の印象に残したり、日本語との音声の違いや語順の違いなどに気付いたりすることができる文字のよさを味わわせたい。そのことにより、児童が外国語学習に対する意欲を維持しつつ、学んだことを積み上げて得た知識や、これまでの経験を活用しながら考えを形成、再構築し、英語で自分の思いをより豊かに伝え合うことができるようになるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

## II 研究の構想

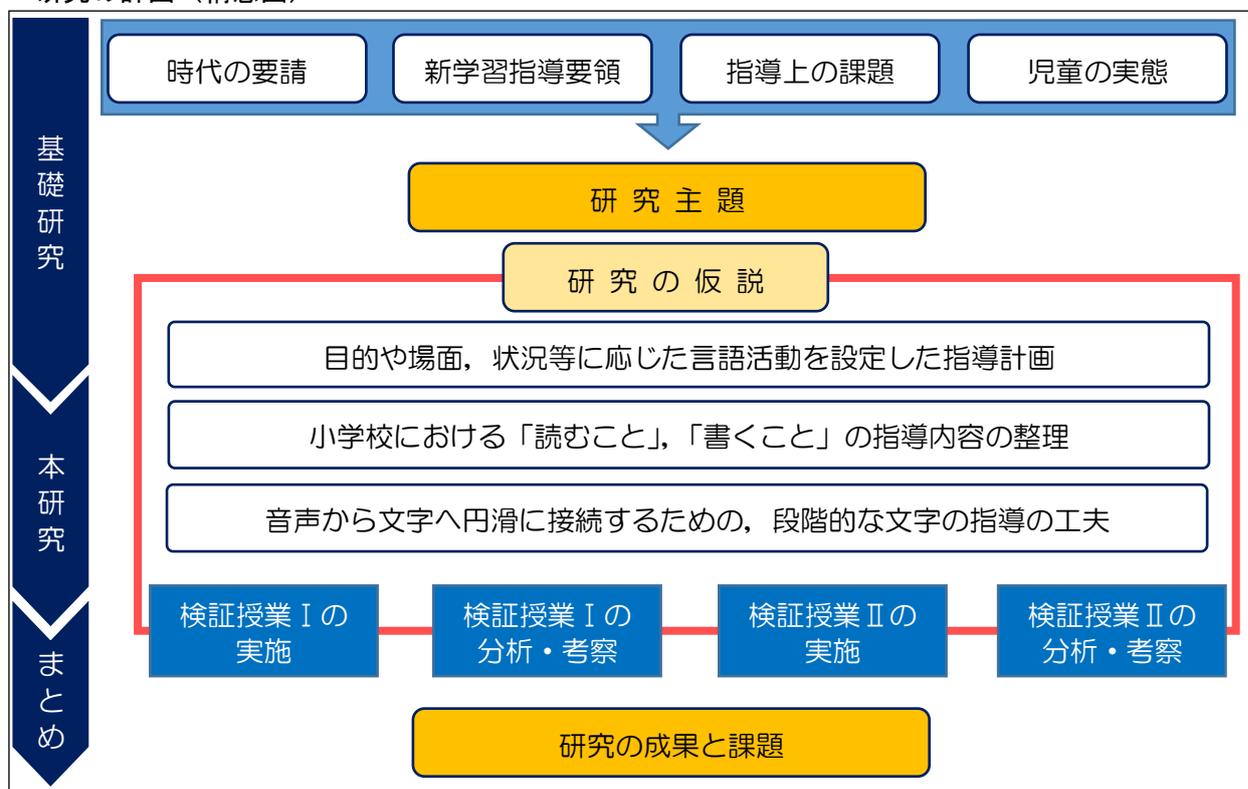
### 1 研究のねらい

- (1) 児童の実態調査を分析し、実態を把握するとともに、指導上の課題を明らかにする。
- (2) 小学校外国語科における「読むこと」、「書くこと」の指導内容を整理し、明らかにする。
- (3) 音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現を、「読むこと」、「書くこと」に円滑に接続する、文字の指導方法を構築する。
- (4) コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にし、音声で十分に慣れ親しませる活動や、目的達成のための言語活動を設定した指導計画を作成する。
- (5) 検証授業を通して仮説を検証するとともに、本研究の成果と課題を明らかにする。

## 2 研究の仮説

外国語によるコミュニケーションの目的や場面、状況等に応じた言語活動において、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現を段階的に文字と結び付けるための指導を工夫することで、音声と文字が接続され、自分の思いをより豊かに伝え合う児童を育成することができるのではないか。

## 3 研究の計画（構想図）



## III 研究の実際

### 1 研究主題についての基本的な考え方

#### (1) 自分の思いをより豊かに伝え合う児童について

本研究における、「自分の思いをより豊かに伝え合う児童」とは、習得した知識を活用して、目的や場面、状況等に応じて形成、再構築した自分の考えをもって、多様な人々に配慮しながら対話する児童のことであり、次の3点で捉えた。

1点目は、十分に慣れ親しんだ外国語の知識を活用できる児童である。そのために音声だけの慣れ親しみに加え、文字と関連付けて指導することで、記憶の保持を促し、児童が活用できる語句や表現を増やすとともに、コミュニケーションの質、量ともに向上させて、児童に自らの成長を実感させることが大切である。

2点目は、多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じた思考、判断のできる児童である。習得した知識やこれまでの経験を相互に関連付けさせたり、情報を精査して考えを形成させたりして、児童に自分の考えを形成、再構築させ、よりよく相手に伝わったことを実感させたい。

3点目は、コミュニケーションを行う多様な人々の、言語や文化等の背景に配慮した発想を行う児童である。目的や場面、状況等を明確にして、児童にコミュニケーションを「なぜ、どこで、どのように」図るのかを理解させて学習に取り組ませることで、「自分が今、伝えている」ということを実感させることにつながると考える。

(2) 小学校外国語の授業づくりについて

小学校外国語の授業づくりを行う上で、次の2点に留意した。

1点目は、外国語そのものを使うことにとどまらず、他者とコミュニケーションすることの大切さや楽しさを体験させることである。そのためには、外国語活動の授業の中で扱うゲームを、遊び的な要素だけで構成するのではなく、目的や場面、状況等を明確にし、言葉を使う意味のある活動を行うような指導計画を作成することが重要であると考え。また、新学習指導要領では、小・中・高一貫した外国語教育における学習過程が示された(図1)。この学習過程の流れの中で、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、思考力や判断力、表現力等を高めていくことが大切である。したがって本研究では、この学習過程に沿って指導計画を作成した。具体的には、単元の導入場面で、単元の目標を共通理解し、児童が楽しみながら英語の音声や語句、基本的な表現に慣れ親しむために、十分に英語を聞く活動を行う。中盤では、ゲーム等を通して繰り返し発音して覚える活動と、児童が「聞きたくなる」、「言いたくなる」必然性のあるやり取りの活動を取り入れた。終末では、それまでに慣れ親しんだ言葉を使い、目的を達成する活動を行った。

2点目は、音声で十分に慣れ親しませることを重視することである。児童期に英語に触れるよさの一つに、音声面での優位性が挙げられる。児童期は英語を聞いたまま丸ごと真似をすることへの抵抗が少ないという特長がある。それを生かし、音声を重視した指導を通して、多くの語句や表現に慣れ親しませ、英語の音声的な特徴に慣れさせるよう工夫した。そして、「音声言語」としての英語の楽しさに触れ、音声だけでも理解できるような力、理解しようとする態度を育てることを重視した。また、本研究では、音声と文字の接続の観点からも、音声での十分な慣れ親しみを踏まえることとした。第一言語である母語を習得する時、子供は大人が話す言葉を聞いて、真似て話せるようになり、徐々に文字を習得していく。第二言語についても同様に、音声形式として身に付いた能力があってこそ、文字への興味が高くなり文字の指導の効果も上がることが期待できると考える。

音声で十分に慣れ親しませる指導の効果を高めるために、本研究では「短時間学習(15分)」、「長時間学習(60分)」を取り入れることとした。新学習指導要領解説では、「言語習得の特性から、基本的な語句や表現などは、場面や活動などを変えながら、繰り返し学習させることで定着を図ることが期待されることから、各学校においては、児童や学校・地域の実態を踏まえ、朝の時間(中略)などを活用した、10分から15分の短時間学習の実施、45分と15分を組み合わせた60分授業の実施(中略)で指導計画を見直し、(中略)教育活動の質の向上を図っていくことが求められる。」と示されている。このことを踏まえ、図2のような単元を構成し、検証授業を行った。

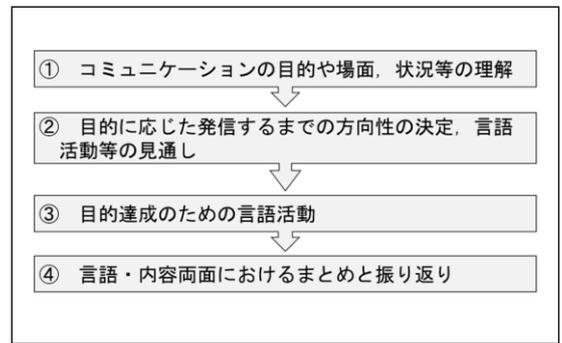


図1 外国語教育における学習過程

Hi, friends! 1 Lesson 4 I like apples.		
学習過程	時	内容例
① コミュニケーションの目的や場面、状況等の理解	短時間	課題設定・単元の見通し
	第1時	果物等・動物等を表す単語へ、音声での慣れ親しみ
	第2時	アルファベットのもつ音への気付きと慣れ親しみ
	短時間	Do you like~? Yes, I do. No, I don't.への慣れ親しみ
③ 目的達成のための言語活動	第3時	Do you like~? を用いたインタビューゲーム
	長時間 短時間 第4時	ビデオメッセージ撮影
④ 言語・内容両面におけるまとめと振り返り		

図2 短時間・長時間学習を取り入れ、学習過程に沿った指導計画例

(3) 音声と文字の接続について

平成28年12月21日の中央教育審議会答申では、音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないことが課題として指摘されている（図3）。

音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現を円滑に文字の指導につなげるために、平成32年度からの外国語科においては、英語の文字や単語などの認識、国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、語順の違いなど文構造の気付きなど、言語能力上の観点から言葉の仕組みの理解などを促す指導が求められている。

そこで本研究では、音声と文字の接続のために、アルファベットの名称の読み方や、英語の音の読み方の指導を行った。また、十分に音声で慣れ親しんだ語句や基本的な表現について、細かな段階を踏んで文字へと慣れ親しませることとした。その上で、児童が書きたいと思うものを書き写したり、選んで書いたりする活動を通して、音声と文字が接続され、実際のコミュニケーションにおいて活用できる、基礎的な技能となることを目指すこととした。

【成果】

- ・ 児童の高い学習意欲
- ・ 中学生の外国語教育に対する積極性の向上

【課題】

- ① 音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていない。
- ② 国語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係の学習、文構造の学習において課題がある。
- ③ 高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められる。

図3 外国語活動の成果と課題

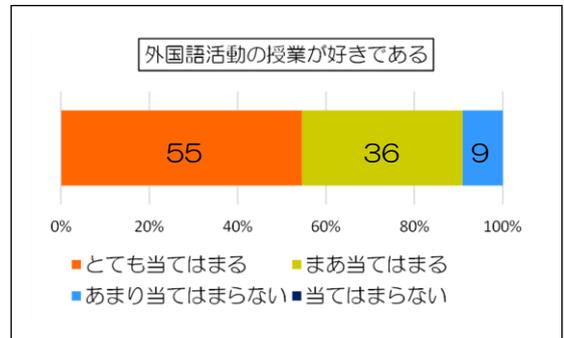


図4 外国語活動の授業に関する意欲

2 児童の実態

(1) 実態調査の概要

- ア 対象 霧島市立中津川小学校第5学年及び第6学年児童11人
- イ 実施日 平成29年5月29日（月）
- ウ 方法 質問紙，口頭質問調査
- エ 内容 外国語活動に対する意欲及び英語の文字に対する興味・関心

(2) 分析と考察

ア 外国語活動の授業に関する意欲並びに英語の文字に対する興味・関心について

「外国語活動の授業が好きですか」という問いに対して、9割以上の児童が肯定的な回答をした（図4）。日頃の授業でも、活発に活動に取り組んだりALTに対して自分から積極的に関わろうとしたりする姿が多く見られる。「外国語活動の授業が好き」であると感じる理由としては、歌やチャンツ、ゲーム、スキット等の学習における活動の楽しさや、ALTをはじめとする外国人と関わる事への興味・関心と、それに伴う言語習得への高い意欲等をもっていることが分かる。

一方で、記述式のアンケートに「発音が難しい」、

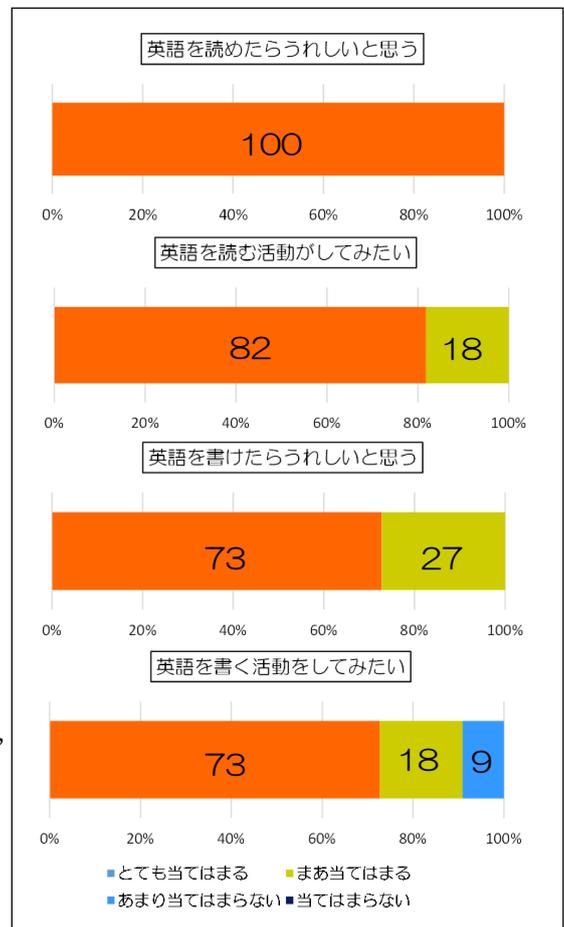


図5 英語の文字に対する興味・関心

「覚えられない」など、外国語活動に対して不安感をもつ児童もいたことから、音声で十分に慣れ親しませることに細かな段階を踏む工夫は、今後も大切にしていかなければならない。

図5は、英語の文字に対する興味・関心についての調査結果である。この結果から、全員が「読めたらうれしい」、「書けたらうれしい」と感じており、「読む活動をしてみたい」、「書く活動をしてみたい」と、ほぼ全員が感じている。このことから、児童は現在の外国語活動よりも更に高度な活動に対して意欲をもっていることが分かる。

児童のもつ、文字に対する興味・関心を授業の中で引き出し、活動の中で効果的に文字を取り扱うことで、音と文字を円滑に接続することができるのではないかと考える。しかし、「英語を書く活動をしてみたいか」という問いに対し、「あまり当てはまらない」と答えている児童もいたことから、音声で十分に慣れ親しませることと、楽しみながら文字に触れさせることに留意し、文字を使うことのよさを少しずつ味わわせることとした。

#### イ 児童の音声と文字の接続の現状について

図6は、音声と文字の接続の状況を知るための調査の結果である。検証授業Ⅰの直前の単元で取り扱った英単語に関して、児童が、音声と絵(意味)、音声と文字を結び付けることができているかについて調査した。その結果、音声を聞いて絵(意味)を選ぶことは96.8%の正答率であり、音声と絵(意味)に関してはおおむね接続されていた。一方、音声を聞いて表す英語の文字を選ぶことは62.0%の正答率だった。このことから、音声と絵(意味)の接続と、音声と文字の接続の状況を比べると、34.8ポイントの開きがあることが分かった。音声を聞いて文字を選ぶことができた数名の児童にその理由を尋ねると、「頭文字から予想した。」、「dのような音が聞こえた。」など、英語の音声と文字のつながりに気付いている児童もいることが分かった。

以上のことから、児童は、これまでの活動を通して、完全ではないものの、多くの言葉について音声と文字を接続することができるということが分かる。つまり、指導計画に、児童がアルファベットのもつ音に気付き、その音の読み方に慣れ親しむ機会や、文字に触れる機会を、細かな段階を踏んで設定することで、音声と文字は接続されると考える。

絵	正答(人)	文字	正答(人)
	11	car	9
	11	cat	6
	11	dog	7
	11	pencil	8
	11	apple	8
	9	desk	6
	9	chair	6
	7	leg	3
	11	blue	6
	11	melon	10
	11	lemon	7
	11	banana	6
	11	soccer	7
	11	baseball	8
	11	spider	7
	11	bag	7
	9	red	5
全体正答率	96.8%	全体正答率	62.0%

図6 音声と絵、音声と文字の接続についての調査

### 3 音声と文字を接続する工夫

#### (1) 小学校外国語科における、「読むこと」、「書くこと」の取扱い

「読むこと」、「書くこと」については、新学習指導要領において、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理され、それぞれ以下のように示されている。

「知識及び技能」の習得に関わる目標では、これまでの課題を踏まえ、「英語の文字や単語などの認識、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、(中略)言語能力上の観点から言葉の仕組みの理解などを促す指導」を求めるとされている。「読むこと」、「書くこと」に関しては、「英語の文字の名称の読み方を活字体の文字と結び付け、名称を発音すること、四線上に書

くことができるようにする」こと、「『十分に音声で慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現』について、読んだり書いたりすることに細かな段階を踏んで慣れ親しませた上で、『語順を意識しながら書き写すことができるようにする』、『自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に書くことができるようにする』」ことが示されている。これらを踏まえ、本研究では、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けさせるため、図7の4点について取り組むことにした。

「思考力、判断力、表現力等」の育成に関わる目標では、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養うこととされている。「推測しながら読む」とは、中学年から何度も聞いたり話したりして、その音声に十分に慣れ親しんだ単語が、文字のみで提示された場合、その単語の読み方を推測して読むことを表している。「語順を意識しながら書く」とは、中学年から音声で十分に慣れ親しんでいる基本的な表現を書き写す際に、決まった語順があることへ気付き、語と語の区切りに注意してスペースを置き、それを意識しながら書くことを表している。これらを踏まえ本研究では、文字を取り扱うに当たり、あくまでも音声で十分に慣れ親しませることを重視するため、図8の2点について取り組むこととした。

「学びに向かう力・人間性」の涵養に関わる目標では、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」と示されている。本研究では、「読むこと」、「書くこと」も扱うことから、コミュニケーションを図る対象が必ずしも目の前にいる「相手」とは限定せず、対象を「他者」とし、メッセージをビデオに撮って送る活動等に取り組む。ここでは、目の前にいない相手に配慮したコミュニケーションを目指すこととした(図9)。

また、「第2節英語」の「1目標」では、「読むこと」「書くこと」について図10のような目標が示されている。「読むこと」については、活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音するとされている。「文字の読み方」には、文字の「名前の読み方(以下「名称読み」という)」と「文字がもっている音(以

#### 「知識及び技能」について

- 文字の名称の読み方を活字体の文字と結び付け発音する
- 四線上に書く
- 語順を意識しながら書き写す
- 例文を参考に書く

図7 「知識及び技能」と本研究の関連事項

#### 「思考力、判断力、表現力等」について

- 推測しながら読む
- ⇒ 音声で十分に慣れ親しんだ語句を推測して読む
- 語順を意識しながら書く
- ⇒ 音声で十分に慣れ親しんでいる基本的な表現に、決まった語順があることに気付く
- ⇒ 語と語の区切りに注意してスペースを置き、それを意識しながら書く

図8 「思考力、判断力、表現力等」と本研究の関連事項

#### 「学びに向かう力・人間性等」について

- コミュニケーションの対象が必ずしも目の前にいる「相手」とは限らないことから、対象を「他者」とする。

図9 「学びに向かう力・人間性等」と本研究の関連事項

#### (2) 読むこと

- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

#### (5) 書くこと

- ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写す事ができるようにする。
- イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

図10 「読むこと」、「書くこと」の目標

下「音読み」という)がある。外国語科では、「文字がもっている音」まで加えて指導する。「書くこと」については、大文字、小文字を活字体で書くことができるようにするとともに、「語順を意識しながら書き写すことができるようにする」と示されており、日本語とは大きく異なる英語の語順を、英語の文字を、「書き写す」活動を通して語順に気付かせることが求められている。これらのことから本研究では、アルファベットがもつ音に気付かせ、指導することで、児童が音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を予測して読むための手掛かりとさせた。また、児童が、相手に伝えたいと思うことを書かせる中で、日本語と英語の語順の違いに気付かせることを目的とした。

## (2) 多角的語彙習得モデルにおける文字の習得順序

中村<sup>\*1)</sup> (2015) は、「音声 (英語で発音されたもの)」、「文字 (アルファベット, 単語, 文)」、「意味 (絵, 日本語, イメージ)」の関係を、多角的語彙習得モデルとして示している。中村は、語彙技能の習得順序は、通常①音声→意味、②意味→音声、③文字→音声、④文字→意味、⑤音声→文字、⑥意味→文字であると述べている。図11は多角的語彙習得モデルと、習得順序を組み合わせたイメージである。

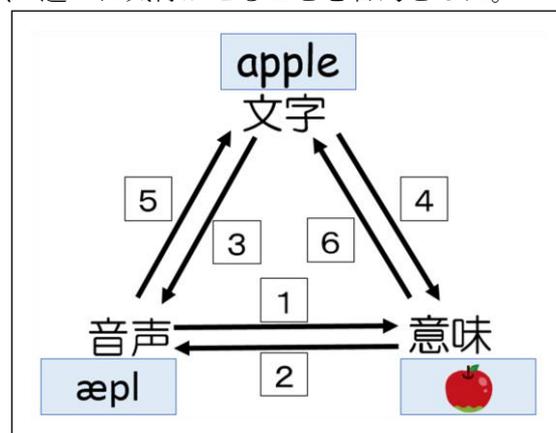


図11 多角的語彙習得モデルを基にした語彙技能の習得順序のイメージ

それぞれの矢印は、①「音声」を聞いてその「意味」が分かるかどうか、②「意味」を見たり聞いたりして

「音声」にすることができるかどうか、③「文字」を見てそれを「音声」にすることができるかどうか、④「文字」を見て「意味」が分かるかどうか、⑤「音声」を聞いてその「文字」が分かるかどうか、⑥「意味」を見たり聞いたりしてその「文字」が分かるかどうかを示している。

新学習指導要領においても、文字の指導に先立つ音声指導の充実の必要性が述べられていることから、本研究では、この多角的語彙習得モデルの習得順序を参考にし、指導計画を作成する際に、音声と意味を十分に接続してから、文字と音声、文字意味を徐々に接続し、音声と文字、意味と文字の接続を図るといった指導を段階的に位置付けることとした。なお、以降、本研究においても、「音声」については「英語で発音されたもの」、「文字」については「アルファベット, 単語, 文」、「意味」については「絵, 日本語, イメージ」として捉えて扱うこととする。

## (3) 単元における文字指導の順序

多角的語彙習得モデルを参考にした文字習得の順序を踏まえ、単元全体における文字の指導をイメージ化したものが図12である。まず、音声で十分に慣れ親しませる活動を通して、①の音声から意味、②の意味から音声の接続を図る。次に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現について、読んだり書いたりすることに細かな段階を踏んだ活動や、書き写す活動、語順を意識しながら書く活動を通して、③の文字から音声、④の文字から意味、⑤の音声から文字の接続を図る。最後に、自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に書く活動を通して、⑥の意味から文字に接続できるように設定した。

なお、文字への慣れ親しみについては、導入から終末まで取り扱うこととした。文字の習得は、1単位時間で成し遂げられるものではないため、継続した指導が必要であると考え。また、文字を取り扱ったゲームについては、児童が音声で十分に慣れ親しんだ後に、徐々に取り組ませることが適切であると考え。さらに、推測して読む活動は、単元の終末段階で、十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、読む目的や場面、状況等を設定し、活動の中で取り組ませることが適切であると考え。最後に「語順を意識して例文を参考に書く活動」は、音声で十分に慣れ親しむ活動や、文字を取り扱ったゲームで文字に慣れ親しませた上で、書く目的や場面、状況等を設定し、活動の中で取り組ませることが適切である。

\*1) 中村 典生 『小中を連携させる効果的な文字指導に関する研究』 2015 公益財団法人 日本英語検定協会 委託研究



#### 4 検証授業 I の実際と考察

##### (1) 検証授業 I のねらい

- ・ 語彙習得モデルの習得順序を参考にした指導計画を作成する。
- ・ アルファベットのもつ音へ気付かせ、「音読み」の指導を行い、慣れ親しませる。
- ・ 音声で十分に慣れ親しんだ語句と、文字が接続されるような活動を取り入れる。

##### (2) 検証授業 I における視点と手立て

視点と手立て		手立ての具体的な内容
視点 1	○ ビデオメッセージ視聴	単元の導入時にALTからのビデオメッセージを見せ、単元の目的や場面、状況等を理解させる。コミュニケーションの具体的な相手を設定し児童の意欲の向上を図る。
	○ 音声で十分に慣れ親しむ活動	45分授業や短時間学習を利用し、ビンゴ等、児童に馴染みのある活動を通して、音声で十分に慣れ親しませる。徐々に発話する量が多くなるような活動を設定する。
	○ 発表に向けた練習時間の確保	60分の長時間学習を利用し、児童の発表に向けて十分な練習の時間を確保する。また、中間評価の時間を設定し、互いに発表を見せアドバイスをし合い、よりよい発表になるよう工夫をさせる。
視点 2	○ 導入でのABCソングの実施	ABCソングを複数の曲調で歌わせ、アルファベットの「名称読み」の定着を図る。
	○ アルファベットのもつ音への気づき	自分たちが発音した英語と黒板用絵カードに書かれている文字の名称を比べ、アルファベットのもつ音に気付かせる。
	○ アルファベットの「音読み」の指導	アルファベットの「音読み」を、Hi, friends! Plusのジングルを通して、楽しみながら慣れ親しませる。
視点 3	○ 頭文字何でしょうクイズ	発音された「音読み」を頼りに、単語の空欄にどの文字が入るか推測させる。
	○ 並べ替えゲーム	発音された「音読み」を頼りに、ばらばらに並べてある文字のカードを並べ替え、単語を作らせる。
	○ ビデオメッセージ・発表ポスターづくり	ALTへのビデオメッセージや、国際交流員へのポスターづくりで、自分が伝えたいことを選んで書き写させる。
視点 4	○ 黒板用絵カードの文字の大きさの調整	黒板用の絵カードは、文字の大きさの違う3種類を用意し、児童が音声への慣れ親しみの程度に応じて徐々に文字の大きいものを提示する。
	○ 板書における文字の提示の工夫	文を提示する際、単語ごとにカードをつくり、黒板に掲示する。目的語の箇所に、黒板用の絵カードを貼り、語順に視覚的に気付けるようにする。
視点 5	○ 単元計画表の作成と掲示	単元の計画表を作成し、コミュニケーションの目的や場面、状況等を理解させ発信までの見通しをもたせる。また、それをいつでも確認できるように、黒板に掲示しておく。
	○ 教室・廊下等の設営、環境整備	教室にアルファベット表や世界地図等を掲示したり、図書室に英語に関する本のコーナーを設置したりして児童の外国語学習への意欲を高める。

##### (3) 検証授業 I の実際：全5時間（3単位時間+15分短時間学習2回+60分長時間学習）

- ・ 単元名 I like apples. 好きなものを伝えよう (Hi, friends! 1 Lesson 4)
- ・ 実施学年 霧島市立中津川小学校第5学年及び第6学年 児童11名
- ・ 実施時期 平成29年6月6日(火)～6月20日(火)
- ・ 目指す児童の姿

ALTに自分の好きなものをビデオメッセージで伝えるという目標に向かって、好きかどうか尋ねたり答えたりする表現や、好きなものを伝える表現に音声で十分に慣れ親しむ。

その際、声の大きさやジェスチャー、表情、間の取り方に気を付けて発表することに加え、ビデオを見る相手に配慮して、より正確に伝わるように、自分が伝えたい単語を選んで書き写し、発表の際に提示することができる。

・ 指導計画

時	学習活動	○ 教師の具体的な働き掛け (視点音声と文字の接続)
短	1 ビデオメッセージの視聴	○ ALTが、自分の好きなものを伝え、中津川小学校の児童の好きなものに興味があるという内容のビデオを見せる。 <b>視点1</b> ビデオメッセージで、ALTが伝えようとしていることを、ジェスチャーや表情などを見ながら推測させる。
	2 単元の目標の確認 リチャード先生に自分たちの好きなものを紹介する、ビデオメッセージを作ろう。	○ ALTの言っていたことを確認しながら、単元の目標を明確化する。 <b>視点1</b> コミュニケーションの目的や場面、状況等を理解させ、発信までの見通しを確実にもたせるために、短時間学習で行う。 <b>視点5</b> 単元の計画表を作成し、黒板に掲示しておく。
1	色々なものを英語で言おう。 1 歌 (ABCソング)	○ 3種類のABCソングを歌わせる。 <b>視点2</b> 様々な曲調に合わせて歌わせ、アルファベットの定着を図る。 <b>視点4</b> 絵カードには大きい絵に小さい文字を入れる。
	2 チャンツ 3 ゲーム ・ キーワードゲーム ・ ボンゴゲーム 4 好きなものの言い方を知る ○ 振り返り	○ 主に「聞くこと」を意識したゲームに取り組みせる。 <b>視点3</b> 聞くことを目的としたゲームから徐々に発話するゲームへと移行し十分に音声に慣れ親しませる。 ○ I like ~.やI don't like~.の表現に慣れ親しませる。
2	アルファベットの音を知ろう。 1 歌 (ABCソング)	○ 自分たちの知っている歌でABCソングを作らせる。 <b>視点2</b> 楽しく歌いながらアルファベットの定着を図る。
	2 ゲーム ・ 爆弾リレーゲーム 3 Hi, friends! Plus シングル 4 ゲーム ・ 頭文字何でしょうクイズ ・ 並べ替えゲーム ○ 振り返り	○ ゲームを通して文字に触れ、アルファベットの音に気付かせる。 <b>視点4</b> 絵カードには絵と同じ大きさの文字を入れる。 ○ シングル「Everyday Things」を聞かせ、一緒に発音させる。 <b>視点2</b> ゲームの中で文字の読み方に触れる。アルファベットのもつ名称と音が違うことに気付かせ、シングルに取り組む。 ○ 「音読み」を頼りに、アルファベットを推測する活動、予想してアルファベットを並べ替え、単語を作る活動を行う。 <b>視点3</b> 文字を取り扱ったゲームに取り組ませる。
短	1 チャンツ	○ 好きかどうか尋ねる表現を繰り返し発話させる活動を通して、十分に表現に慣れ親しませる。
	2 ゲーム ・ ジェスチャーゲーム	<b>視点3</b> 繰り返し発話させ、Do you like~? Yes, I do. No, I don't.の表現に十分慣れ親しませる。 <b>視点1</b> 音声で十分に慣れ親しむことを目的に短時間学習を行う。
3	好きなものを英語で聞こう。 1 Hi, friends! Plus シングル	○ シングルを聞かせる。2回目は児童と一緒に発音する。 <b>視点2</b> シングルはリズムに合わせ楽しい雰囲気を取り組みせる。 <b>視点4</b> 絵カードは小さい絵に大きい文字を入れる。
	2 チャンツ 3 ゲーム ・ マッチングゲーム ・ インタビューゲーム ○ 振り返り	○ 「話すこと (やりとり)」を中心にしたゲームに取り組ませる。 <b>視点4</b> Do you like~? I like ~. I don't like~. を単語ごとにカードにして並べ、語順の違いに視覚的に気付けるよう工夫する。 ○ インタビューする意味のある内容になるように工夫する。
長 (4)	好きなものを紹介しよう。 1 Hi, friends! Plus シングル	○ シングル「Foods」を聞かせる。2回目は言えるところを一緒に言わせるようにする。 <b>視点2</b> シングルはリズムに乗り、楽しい雰囲気を取り組みせる。 <b>視点4</b> 絵カードは文字のみのものを使用する。
	2 紹介モデル 3 紹介づくり① 4 発表① 5 紹介づくり② 6 発表② (ビデオ撮影) ○ 振り返り	○ 紹介づくりでは、個人・ペアの順で取り組みせ、HRTは活動が進んでいない児童の補助をする。 <b>視点3</b> 発表練習の時間を十分に確保するために長時間学習にする。 <b>視点1</b> 練習時間を十分に確保するために、長時間学習にする。 ○ 互いに発表を見て、よりよくなるためのアドバイスをし合う。 <b>視点2</b> より伝わりやすい発表となるための意見の中から、文字があるとよいという工夫を取り上げ、伝えたい語句を書き写させる。 ○ アドバイスを基に改善を図る。 ○ ビデオに発表の様子を録画する。

(4) 授業の実際：第2時

ア 本時の展開に当たって

前時までには児童は、身の回りにある果物・食べ物・動物・スポーツ等を表す語彙や、好きなものの言い方を表す表現に、音声で十分に慣れ親しんでいる。

本時では、まず、ゲーム①を通して、これまで慣れ親しんだ英語の音声と、自分たちの知っている文字の名称が違うということに気付かせる。その後、Hi, friends! Plusに収録されているジングル「Everyday Things」を児童に聞かせ、文字の「音読み」に慣れさせたい。その後、「頭文字何でしょうクイズ」や「並べ替えゲーム」等の、「音読み」を手掛かりに文字を推測させるゲームを通して、楽しみながら文字に触れ、慣れ親しんだ音声と文字の接続を図りたい。

イ 本単元に関する主な単語や表現

I (don't) like ～. Do you like ～? Yes, I do. No, I don't. strawberry, cherry, peach, grape, kiwi fruit, lemon, banana, pineapple, orange, melon, ice cream, milk, juice, baseball, soccer, swimming, basketball, bird, rabbit, dog, cat, spider

ウ 実際

活動内容	教師の働き掛け <b>（視点）</b> 音声と文字の接続
<p>1 挨拶</p> <p>2 歌 (ABCソング) 『きらきら星』、『7 Steps』 『アルプス一万尺』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オリジナルABCソング</li> </ul>	<p>○ 簡単な挨拶を行い、楽しく学習できる雰囲気高める。</p> <p><b>視点2</b> 3種類のABCソングの中から好きな曲を1曲選ばせて、文字を見ながら歌わせる。</p> <p>○ オリジナルのABCソングをグループでつくり練習する。練習後、グループ毎につくったABCソングを発表させる。</p>
<p>3 ゲーム①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>爆弾リレーゲーム</li> </ul> 	<p>○ ゲーム①では、好きなものを言えたらグループの友達に爆弾の玩具をパスするという簡単なゲームであることを説明する。</p> <p>○ I like～の表現を想起させるとともに、発音した英語と絵カードに表記されている文字の名称が違っていることを取り上げ、文字のもつ名称と音が違うことに気付かせる。</p> <p><b>【アルファベットの音への気付きの場面】</b></p> <p>T: 「みんなは、ねこを見て [kæt] と言っていましたね。でも、ここには [si:], [ei], [ti:] と書いてあります。なぜ、[si:], [ei], [ti:] とわずかに、[kæt] と言うのでしょうか。」 S: 「アルファベットには別の言い方があるかもしれない。」</p>
<p>4 アルファベットのもつ音への気付き</p> <p>5 めあて</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> <p>アルファベットの音について知ろう。</p> </div>	<p>○ めあてを焦点化する。</p>
<p>6 ジングル</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <p><b>【使用教材】</b> Hi, friends! Plus ジングル「Everyday Things」</p> </div> 	<p>○ ジングル「Everyday Things」を児童に聞かせる。</p> <p><b>視点2</b> ジングルが、頭文字の「音読み」を繰り返してから単語を発音しているという仕組みを理解させる。</p> <p>○ ジングル「Everyday Things」を児童と一緒に発音する。</p> <p><b>視点2</b> ジングルを聞いたり発音したりしながら、それぞれの文字がもつ音に慣れ親しませる。</p> <p>○ 文字の「音読み」をしてみて、思ったことや感じたことを発表させる。</p>

<p>7 ゲーム②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>頭文字何でしょうゲーム</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>並べかえゲーム</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アルファベットのもつ音を手掛かりにするようなゲームに取り組ませる。</li> <li>○ 教師が「音読み」をし、空欄に当てはまる文字を推測させる。</li> </ul> <p><b>視点3</b> ジングルで発音した「音読み」と、アルファベットの音が一致する語を選びゲームで扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電子黒板を使い、児童が楽しく活動に取り組めるよう、工夫をする。</li> <li>○ 教師が「音読み」をしたものを児童が聞き、ばらばらに並んだアルファベットを推測して選び、並べ替えさせて英単語を作らせる。</li> <li>○ 子供たちにとって、難易度が高くなり過ぎないように配慮し、個人ではなく、グループで取り組ませるようにする。</li> </ul> <p><b>視点4</b> 絵カードを黒板に掲示しておき、参考にしてよいことを伝える。</p>
<p>8 振り返り</p> <p>9 挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今日の活動でできるようになったことや、新しく分かったことなどを振り返りカードに記入させる。</li> </ul>

エ 第2時の検証結果

視点	検証結果（◎成果、▲課題）
<p>視点1 指導計画の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 本単元では、児童が既に知っている語句や既習の語句が多かったことに加え、第1時に十分に音声で慣れ親しむことができていることから、文字を取り扱うタイミングとしては適切だったと考える。</li> <li>▲ 単元によっては、児童が初めて出会う言葉が多くなる。その場合は、十分な慣れ親しみに時間が掛かることから、単元終末に文字を取り扱う活動を設ける必要がある。</li> <li>▲ 音声と文字を接続する上で、特定の単位時間にだけ文字を扱う指導計画ではなく、音声で慣れ親しむ活動の中で段階的に文字を取り扱うといった流れを位置付けた指導計画にする必要がある。</li> </ul>
<p>視点2 アルファベットのもつ音への気付きと指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ アルファベットのもつ音に気付かせ、「音読み」の指導をしたことで、音声で慣れ親しんだ語句を「音読み」で聞き、予測して文字を当てはめたり並べ替えたりすることができた。</li> <li>▲ 文字の定着を促すために、「l」、「m」、「n」を曖昧に発音する児童に対し、それらを再確認する場を設定する必要がある。</li> </ul>
<p>視点3 音声と文字を結び付ける活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 文字を取り扱う活動（「頭文字何でしょうゲーム」、「並べ替えゲーム」）は、児童は無理なく取り組み、楽しく活動できていた。</li> <li>◎ 文字を取り扱う活動は、児童が音声で十分慣れ親しんだ語句を文字にする経験となり、音声と文字を接続する手立てとなった。</li> <li>▲ 文字を扱う際には、児童が混乱しないように、掲示する文字の字体をそろえる必要がある。</li> <li>▲ 児童が文字に十分に慣れ親しんでいなかった。慣れ親しんでいない文字は「音読み」も困難な様子が見られた。文字を扱う際には、読んだり書いたりすることに、十分に慣れ親しませておくことが必要である。</li> </ul>
<p>視点4 文字提示の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 文字を扱うゲームの際に、黒板に絵カードに提示していたことで、児童は活動を進める上での手掛かりとしていた。</li> <li>▲ 文字を大きくしたことに対して児童から特別な反応は見られなかったことから、提示の仕方を更に工夫する必要がある。</li> </ul>

(5) 授業の実際：長時間（第4時）

ア 本時の展開に当たって

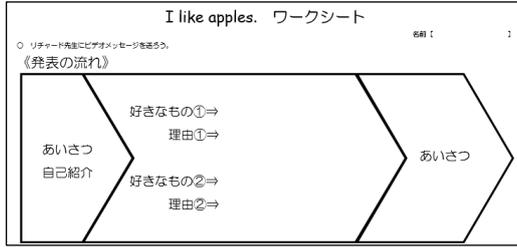
前時までには児童は、I like ～.の表現やDo you like ～? , Yes, I do., No, I don't.の表現に、十分に慣れ親しみ、自分の好きなものを伝えたり相手の好きなものを尋ねたり、好きかどうか答えたりできるようになっている。

本時では、英語のもつ音に慣れ親しませるために、前時に引き続き、冒頭でHi, friends! Plusにあるジングルに取り組みさせる。次に、外国語活動支援員に紹介モデルを示してもらい。その際、表情やジェスチャーなど非言語の部分を意識したモデルとなるようにする。そして、紹介モデルに沿ってチャンツを行い、紹介文作成に入る。練習①の後では、児童を称賛した上で、どうすればよりよく伝わるかを子供たちに考えさせる。この際、ビデオレターであることを強調し、より正確に伝わるためには文字があると便利であることに気付かせる。文字を書く活動では、四線の書かれた画用紙と教師の手本を書き写させる。そして、練習②で改良させた後、発表②でビデオ撮影を行う。なお、単元終末のコミュニケーション場面を充実させるため、本授業は通常の45分授業と15分短時間授業を組み合わせた60分授業として実施する。

イ 本単元に関する主な単語や表現

Hi. My name is ～. I (don't) like ～. Do you like ～? because, See you. sweet, fun, sour, cute, cool, Yes, I do. /No, I don't. strawberry, cherry, peach, grape, kiwi fruit, lemon, banana, pineapple, orange, melon, ice cream, milk, juice, baseball, soccer, swimming, basketball, bird, rabbit, dog, cat, spider

ウ 実際

活動内容	教師の働き掛け <b>（視点）</b> 音声と文字の接続
1 挨拶 2 ジングル <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>【使用教材】</b>                          Hi, friends! Plus                          ジングル「Foods」                     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 簡単な挨拶を行い、楽しく学習できる雰囲気高める。</li> <li>○ ジングル「Foods」を児童と一緒に発音する。</li> </ul> <p><b>視点2</b> ジングルを聞かせながら、それぞれの文字がもつ音に慣れ親しませる。</p>
3 紹介モデルの視聴 <div style="margin-top: 10px;"> <b>【児童が挙げた発表の工夫】</b>                          ・ ジェスチャー ・ 笑顔 ・ 間                          ・ 声の大きさ ・ 目線                     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ALTからのビデオレターを基に作成した紹介モデルを見せる。子供たちにこの時間にする発表内容について把握させる。</li> </ul> <p><b>視点4</b> モデル文（文字）を黒板に掲示する。</p> <div style="background-color: #e0f0ff; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <b>【モデル文】</b>                          Hi, Richard! My name is Hitomi.                          I like melons because it is sweet. Do you like melons?                          I like baseball because it is fun. Do you like baseball? See you.                     </div>
4 めあて <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         リチャード先生に好きなものを伝えるビデオメッセージを作ろう。                     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元計画表を確認させ、めあてを焦点化する。</li> </ul> <p><b>視点4</b> 絵カードには文字のみのものを使う。  <b>視点4</b> 絵カードは黒板ではなく壁に掲示し、黒板が文字ばかりにならないように配慮する。</p>
5 チャンツ <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         Hi. My name is ～.                          I like ～ because it's sweet/ fun/ cute/ cool. Do you like ～?                          See you.                     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ チャンツは、モデル文に沿って教師が発音したものを繰り返させる。</li> <li>○ チャンツは、外国語活動支援員が発音した後、児童に繰り返させる。</li> </ul>
6 紹介文の作成・練習① ・ 個人 ・ ペア <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ワークシートに沿って、個人で紹介内容を決めさせる。</li> <li>○ 練習をペアで行わせ、互いにアドバイスをし合うよう指導する。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>使用したワークシート</b> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 5px;">  </div>

<p>7 発表①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ</li> </ul> <p>8 練習②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ</li> </ul> <p>9 発表②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体 (ビデオ撮影)</li> </ul> 	<p>○ 発表を2グループに分かれて行わせる。発表を見るときには導入場面で確認した工夫すべき点を意識し、発表後にそれぞれのグループでアドバイスをさせ合う。</p> <p><b>視点1</b> 練習時間を十分に確保するために長時間学習にする。</p> <p>○ HRT, 外国語活動支援員は、各グループの様子を見ながら、発表に困っている児童の補助をする。発表を終えた児童には、称賛やアドバイスを与える。</p> <p>T:「今回はビデオメッセージを送ります。ビデオを見るリチャード先生にもっと正確に伝えるにはどうすればよいでしょうか。」 S:「好きなものを文字で書けばよいと思います。」 T:「なぜそう思うのですか。」 S:「ビデオでは、聞き取れなかったことがあった時に質問することができないからです。文字があると絶対伝わると思います。」 T:「なるほど。では、みんなで伝えたいことを書いてみましょう。」</p> <p><b>視点3</b> 文字があった方が伝わりやすいという意見を取り上げ、自分が伝えたいことを書かせる。文字を書くための準備(なぞり書き・四線のみ)をしておく。</p> <p>○ アドバイスを基に、紹介の仕方を改善させる。 ○ 全体で発表をし、その様子をビデオに撮影する。</p>
<p>10 振り返り</p>	<p>○ 今日の活動でできるようになったことや友達のよかったところ、自分の発表の感想等を振り返りカードに記入させる。</p>

エ 短時間学習③+第4時の検証結果

視点	検証結果 (◎成果, ▲課題)
<p><b>視点1</b> 指導計画の工夫</p>	<p>◎ 発表の練習を十分に確保したことで、児童は自信をもって発表をすることができた。</p> <p>◎ 中間発表で互いにアドバイスをした後、全体で共有する時間を確保したことで、よりよい発表にするための手段として、文字が挙げられた。</p> <p>◎ 60分授業で、児童に無理なく活動に取り組ませることができた。</p>
<p><b>視点2</b> アルファベットのもつ音への気付きと指導</p>	<p>◎ 導入においてジングルを毎時間継続して取り扱うことで、文字の「音読み」の慣れ親しみにつながった。</p> <p>▲ ジングルは、単調な繰り返し練習のため、ただ流すだけでは、児童が楽しさを感じなくなることが予想されることから、取扱いに配慮する必要がある。</p>
<p><b>視点3</b> 音声と文字を結び付ける活動</p>	<p>◎ ビデオメッセージという場面、状況を児童がしっかりと把握し、ALTに伝えるという目的を達成するための手段として、文字が挙げられた。</p> <p>◎ 自分が相手に伝えたいと思うことを書く活動は、児童にとって楽しみながら活動できていた。また、英語が書けたということで児童は達成感を味わうことができた。</p> <p>▲ 「bとd」, 「pとq」等、似ている文字を混同して覚えている児童が見られたことから、文字の「名称読み」, 「音読み」の細かな指導が必要である。</p> <p>▲ 文字を書くという経験を積むことなく、語を書く活動に移ったため、書き写すことを難しく感じている児童がいた。語を書く活動を取り入れるまでに細かな段階を踏んだ指導が必要である。</p>
<p><b>視点4</b> 文字提示の工夫</p>	<p>▲ 文字だけが書かれたカードを提示したが、児童が文字に関して、何か特別の気付きをするということにはなかった。また、板書が文字ばかりになってしまい、教師が何を示したいのかが不明確になってしまった。板書の精選の必要がある。</p>

(6) 検証授業Ⅰ後の児童の変容

本単元で文字を扱う時間を取り入れたが、児童の学習に対する意欲は高い状態を維持している(図13)。

また、単元を通して歌やジングルで小文字を取り扱ったことで、児童の小文字の認識が高まった。検証授業前は、本校児童は小文字の71%を読むことができ、39.9%を書くことができたのに対し、検証授業後は、小文字の79.9%を読むことができ、57.3%を書くことができるようになった。児童が小文字を読むことに関しては8.9ポイント上昇し、小文字を書くことに関しては17.4ポイント上昇した。

また、図14は検証授業Ⅰ後の英語の音声聞いて、絵や文字を選ばせる調査の結果である。検証授業Ⅰで取り扱ったLesson4の英単語に関して、児童が音声と絵(意味)、音声と文字をそれぞれの程度結び付けることができているかについて調査した。

その結果、音声を聞いて絵(意味)を選ぶことは99.2%が正答しており、音声と絵(意味)に関してはおおむね接続されていると言える。一方、音声を聞いて文字を選ぶことは76.7%ができていた。検証授業前と比較すると、音声と文字の接続が14.7ポイント上昇した。

これらのことから、単元計画の中に、文字の音に気付く活動や文字に触れるような活動を、細かな段階を踏んで、意図的に取り入れることは、音声で十分に慣れ親しんだ語句と文字との接続を図る手立てとなるといえる。

一方で、文字を指導するに当たっては、児童がアルファベット自体に十分に慣れ親しみ、認識しておくことや、書く経験をしていることが必要であることが分かった。検証授業Ⅱでは、このことに留意して、音声で十分に慣れ親しませることと平行して、文字への継続した慣れ親しみも取り入れて、指導計画を作成することとした。

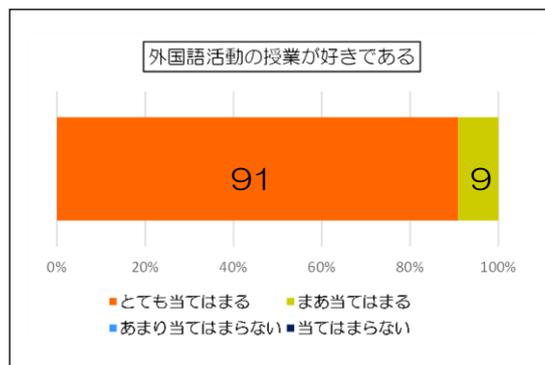


図13 検証授業Ⅰ後における外国語活動の授業に関する意欲

絵	正答(人)	文字	正答(人)
	11	apples	10
	11	grapes	11
	11	pineapples	7
	11	milk	11
	11	dogs	10
	11	soccer	9
	10	strawberries	9
	11	kiwi fruits	11
	10	oranges	11
	11	juice	9
	11	cats	8
	11	swimming	9
	11	cherries	8
	11	lemons	7
	11	melons	11
	11	birds	4
	11	spiders	8
	11	basketball	4
	11	peaches	8
	11	bananas	7
	11	ice cream	9
	11	rabbits	9
	11	baseball	4
正答率	99.2%	正答率	76.7%

図14 検証授業Ⅰ後の児童の音声と絵(意味)、音声と文字の接続の状況

(7) 検証授業Ⅰを通じた自分の思いをより豊かに伝え合う児童の姿

児童の言動	より豊かな伝え合いとなった部分
「おすすめのカレーを作ろう」の際に、トッピングメニューを書き込む箇所に、ワークシートに記載されている文字を参考に、自主的に書いていた。(第4時)	文字に特化したゲームを通して、文字に関心をもち始め、真似をして書いてみようとする態度が育ってきている。 
中間発表の際に、より相手に伝わりやすい発表にするための工夫として「文字があると分かりやすいのではないか」と発言していた。(第5時)	外国語で他者とコミュニケーションを行う上で、相手に十分配慮した発想をすることができている。

<p>児童は相手に最も伝えたい語句をカードに書き、発表の際に、その語句の書かれたカードを発音するタイミングで提示していた。(第5時)</p>	<p>自分が好きなものを相手に文字で提示し伝えることができています。 自分が発音している語句の音声と文字が一致している。</p>	
<p>図書室に置かれた英語の本を、「音読み」を頼りに読もうとしていた。(検証授業後)</p>	<p>文字の「音読み」の学習を通して得た知識を、他の場面でも活用しようとしていることができています。</p>	

## 5 検証授業Ⅱの実際と考察

### (1) 検証授業Ⅱのねらい

- ・ 文字を読んだり書いたりすることに十分に慣れ親しませる。
- ・ 語彙習得モデルの習得順序に沿った指導計画を作成する。
- ・ 自分が書きたいと思うものを表したカードを選んで四線上に書く活動に取り組む。

### (2) 検証授業Ⅱにおける視点と手立て

視 点		手立てと具体的な内容
視点 1	○ ビデオメッセージ視聴	単元の導入時に、国際交流員からのビデオメッセージを見せ、単元の目的や場面、状況等を理解させる。コミュニケーションの相手を具体的に設定することで意欲の向上を図る。
	○ 音声で十分に慣れ親しむ活動	45分授業や短時間学習を利用し、キーワードゲームやボンゴなど児童に馴染みのある活動を通して、音声で十分に慣れ親しませる。徐々に発話する量が多くなるような活動を設定する。
	○ 発表に向けて音声で十分な練習時間の確保	60分の長時間学習を利用し、児童の発表に向けて十分な練習の時間と中間発表の時間を設定する。互いの発表に対してアドバイスをし合い、よりよい発表になるよう工夫させる。
視点 2	○ 小文字への慣れ親しみ	Hi, friends! Plus の小文字探しを行い小文字に慣れ親しませる。
	○ 小文字を書く指導	Hi, friends! Plus の小文字のなぞり書きに取り組み、小文字の書き方に慣れ親しませる。
	○ 「音読み」の指導	Hi, friends! Plus のジングルを通して、「音読み」に、楽しみながら慣れ親しませる。
視点 3	○ キーワードゲーム	キーワードを「発音」から「カテゴリー」や、「アルファベット」等に変えて、キーワードが該当するカードを取らせる。
	○ パズルゲーム	「音読み」、「発音」、「意味」を聞き、ばらばらに並べてある文字のカードを並べ替え、単語を作らせる。
	○ 発表ポスターづくり	自分たちが相手の印象に残したいことを選んで書き写す。国際交流員から児童に、文字が発表を理解する上で役立ったことを伝え、よさを味わわせる。
視点 4	○ 黒板用絵カードの文字の大きさの調整	黒板用の絵カードは、文字の大きさの違うものを3種類用意して、児童が音声への慣れ親しみの程度に応じて、徐々に文字の大きいものを提示する。
	○ 児童用絵カードの工夫	児童用の絵カードを作成する。表面には絵を、裏面には四線に書かれた文字を記載する。音声で十分に慣れ親しむ活動では表面を、文字との接続を図る場面では裏面を活用する。
視点 5	○ 単元の計画表の作成と掲示	単元の計画表を作成してコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解させ発信までの見通しをもたせる。また作成した単元の計画表をいつでも確認できるよう黒板に掲示しておく。
	○ 教室、廊下等の設営・環境整備	児童のワークシート等を掲示して、学習意欲を高める。また、階段にアルファベットの掲示をし、文字の定着を図る。

(3) 検証授業Ⅱの実際：全6時間（4単位時間+15分短時間学習2回+60分長時間学習）

- ・ 単元名 I like my town. 中津川を紹介しよう
- ・ 実施学年 霧島市立中津川小学校第5学年及び第6学年 児童11名
- ・ 実施時期 平成29年11月8日（水）～11月22日（水）
- ・ 目指す児童の姿

国際交流員に対して中津川の魅力を伝えることを目標に、地域にある建物や場所を表す語句や、できることを表す表現に慣れ親しむ。発表では、文字を用いた発表を通して、より正しく伝わることや相手の記憶の保持に役立つ等といったよさを味わう。

・ 指導計画

時	学習活動	教師の具体的な働き掛け（視点・音声と文字の接続）
短	1 ビデオメッセージの視聴 2 ビデオメッセージの内容の確認 3 単元計画表を作る ジョセフさんに中津川を紹介して知ってもらおう。	○ 霧島市国際交流員のジョセフさんが自分の住む町の紹介をし、中津川には何があるか尋ねるといった内容のビデオを見せる。 <b>視点1</b> 電子黒板を使い、国際交流員が伝えようとしていることを、表情や絵カードから推測させる。 ○ 第5時に来校すること、中津川のことを教えてほしいという内容のビデオを見せる。 <b>視点1</b> コミュニケーションの目的や場面、状況等を理解させ、発信までの見通しをもたせるために、短時間学習で行う。 ○ 何を言っていたかを確認し、単元の目標を明確化する。 <b>視点5</b> 単元の計画表を作成し、黒板に掲示しておく。
1	中津川にあるものの英語の言い方を知ろう。 1 ゲーム① ・ 指差しゲーム 2 チャンツ 3 ゲーム② ・ カルタ取りゲーム 4 ゲーム③ ・ 小文字探しゲーム ○ 振り返り	○ 第5時の発表で必要となる語を選ぶ。 <b>視点4</b> 絵カードには大きい絵に小さい文字を入れる。 ○ 地域にあるものを表す英語に音声で十分に慣れ親しませる。 <b>視点3</b> 聞くことを目的としたゲームを通して、十分に音声に慣れ親しませる。 ○ 楽しく活動しながら文字に触れさせる。 <b>視点2</b> Hi, friends! Plusの小文字探しを使い、楽しく活動させながら小文字の形に慣れ親しませる。
短	1 チャンツ① 2 ゲーム① ・ すごろくゲーム 3 チャンツ② 4 ゲーム② ・ ラインじゃんけん	○ We have ～.を使って地域にある場所やものを繰り返し言う活動を通して、音声で十分に慣れ親しませる。 <b>視点3</b> 繰り返し発話させ、地域にある場所やものの言い方に十分に慣れ親しませる。 <b>視点1</b> 音声で十分に慣れ親しむことを目的に短時間学習を行う。
2	紹介する表現を思い出そう。 1 チャンツ 2 ゲーム① ・ T or Fゲーム 3 ゲーム② ・ 町づくりゲーム 4 アクティビティ① ・ 小文字のなぞり書き ○ 振り返り	<b>視点4</b> 絵カードには絵と同じ大きさの文字を入れる。 ○ ゲーム①ではWe have ～.が成立するよう、児童をペアにする。 <b>視点3</b> 徐々に発話するゲームへと移行し音声に慣れ親しませる。 ○ 3グループに分け、それぞれ別の情報が書かれた地図を渡し、互いに自分のもっている情報を紹介させ合い、町を完成させる。 ○ Hi, friends! Plusの小文字認識のワークシートに取り組みさせる。 HRT、外国語活動支援員は机間指導をし、補助や称賛をする。 <b>視点2</b> 書きたい文字から書かせ楽しみながら文字の定着を図る。
3	紹介する表現に慣れよう。 1 ジングル 2 ゲーム① ・ キーワードゲーム 3 アクティビティ① ・ ミニポスターづくり 4 ゲーム② ・ インタビューゲーム ○ 振り返り	○ ジングルを児童と一緒に発音する。 <b>視点2</b> ジングルはリズムよく楽しい雰囲気で行なわせる。 ○ キーワードゲームを行う際、多角的語彙習得モデルを意識し、段階的に文字に触れさせる。 <b>視点4</b> 絵カードは小さい絵に大きい文字を入れたものを黒板に掲示し、キーワードゲームの手掛かりにさせる。 ○ インタビューする意味のある内容になるように工夫する。 <b>視点3</b> ミニポスターづくりでは、自分が紹介したい場所をなぞり書きさせる。

長 (4)	<p style="text-align: center; border: 1px solid orange;">中津川紹介の練習をしよう。</p> <p>1 ゲーム① パズルゲーム</p> <p>2 チャンツ</p> <p>3 練習①</p> <p>4 発表①</p> <p>5 練習②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝えたいことを選んで書く</li> <li>○ 振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パズルゲームでは、ALTの発音を聞かせばばらに置いてある文字を並べ替えさせる。</li> <li><b>視点3</b> パズルゲームでは「音読み」を聞いて並べる、発音を聞いて並べる、意味を聞いて並べるなど形式を変えて行う。</li> <li><b>視点4</b> 絵カードは文字が大きく書かれたものを使用し、黒板に掲示しておく。</li> <li>○ 練習①はグループ内で行い、HRT、ALTはアドバイスをする。</li> <li><b>視点1</b> 練習時間を十分に確保するために、長時間学習で行う。</li> <li>○ 発表①後、ALTからアドバイスをしてもらおう。</li> <li><b>視点3</b> ポスターに文字が書いてあるとより分かりやすいとアドバイスをしてもらい、児童に伝えたい言葉を選ばせて書かせる。</li> <li>○ 練習②を行い、互いの良さや改善点について話し合わせる。</li> </ul>
5	<p style="text-align: center; border: 1px solid orange;">中津川を紹介しよう。</p> <p>1 国際交流員による自己紹介</p> <p>2 発表</p> <p>3 感想の交流</p> <p>○ 振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>視点4</b> 絵カードは文字が大きく書かれたものを使用し、黒板に掲示しておく。</li> <li>○ 授業の始めに、国際交流員から出身国の紹介をもらおう。</li> <li>○ ポスターセッション形式で発表することを説明し、発表の準備をさせる。</li> <li>○ 国際交流員以外にも、複数の教員に発表を聞いてもらう。</li> <li>○ 国際交流員には各発表後、児童へ簡単な質問をもらおう。児童には、知っている言葉やジェスチャー等で答えさせる。</li> <li><b>視点3</b> 国際交流員にポスターに書かれている文字について称賛してもらおう。</li> <li><b>視点5</b> 全員の発表が終わった後に多目的教室後方へ掲示し、児童に達成感を味わわせ、他学年への意欲付けを図る。</li> </ul>

(4) 授業の実際：第3時

ア 本時の展開に当たって

前時までに児童は、地域にある建物や場所、植物、生き物を表す英語や、英語で紹介する表現に音声で十分に慣れ親しんでいる。

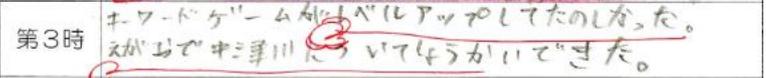
本時では、まず、ジングル「Everyday Things」を児童と一緒に発音し、文字の「音読み」に慣れ親しませる。その後、「キーワードゲーム」を行う。「キーワードゲーム」では、キーとなる「言葉」が発音されたら消しゴムを取る活動に加え、「言葉」を「カテゴリー」や「意味」に変えることで、児童の音声と文字の接続を図る。後半のインタビューゲームでは、児童が実態調査で紹介したいと思っていたことについて紹介する。教師が、あらかじめミニポスターを作成しておき、児童に発表する表現をなぞり書きさせる。音声で十分に慣れ親しんだ語句について徐々に文字に触れさせ、音声と文字との接続を図る。

イ 本単元に関する主な単語や表現

fall, shrine, rice field, mountain, river, forest, wisteria, rice, tea, firefly, beetle, hot spring, road, swimming, fishing, jogging, cycling, hiking, driving, You can see/eat/drink/enjoy～. Nice to meet you. We have～.

ウ 実際

活動内容	教師の働き掛け (視点音声と文字の接続)
<p>1 挨拶</p> <p>2 ジングル</p> <p style="border: 1px solid green;">【使用教材】 Hi, friends! Plus ジングル「Everyday Things」</p> <p>3 めあて</p> <p style="border: 1px solid red;">中津川にあるものの言い方や紹介する表現に慣れよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 簡単な挨拶を行い、楽しく学習できる雰囲気高める。</li> <li>○ Hi, friends! Plus に収録されているジングル「Everyday Things」を流し、児童と一緒に発音する。</li> <li><b>視点2</b> ジングルを聞きながら、それぞれの文字がもつ音に慣れさせる。</li> <li>○ 単元計画表を確認させ、めあてを焦点化する。</li> <li><b>視点4</b> 絵カードは文字が大きく書かれたものを使用する。</li> </ul>

<p>4 ゲーム① ・ キーワードゲーム</p> <p>ア「音声→意味」の接続 キーワード：単語</p> <p>イ「意味→音声」の接続 キーワード：カテゴリー</p> <p>ウ「文字→意味」、「文字→音声」の接続 キーワード：アルファベット</p>  <p>5 ミニポスターづくり・練習</p> <p>I like my town. We have a ～. You can ～. That's all.</p>  <p>6 ミニ発表会</p>	<p>○ 通常のキーワードゲーム（キーワード：単語）から始める。HRTが発音した単語を児童に繰り返させ、前時までに慣れ親しんだ語の復習も兼ねる。</p> <p>○ 十分に発話させたら、キーワードをカテゴリーに変更する。</p> <p>【イ 「意味→音声」の接続を図るキーワードゲーム】 キーワードであるカテゴリーが発音されたら消しゴムを取る。 (例) キーワード<u>食べ物</u>：fall shrine wisteria <u>rice</u></p> <p><b>視点3</b> キーワードであるカテゴリー（意味）と、英語の音声の接続を意識して取り組ませる。</p> <p>【ウ 「文字→意味」、「文字→音声」の接続を図るキーワードゲーム】 キーワードであるアルファベットが発音されたら消しゴムを取る。 (例) キーワード<u>s</u>：beetle rice tea firefly <u>hot spring</u></p> <p><b>視点3</b> キーワードである文字と、英語の意味や音声の接続を意識して取り組ませる。</p> <p>○ 消しゴムを早く取れる児童に理由を聞く。黒板にある絵カードの文字を見ていることを称賛し、他の児童の参考にさせる。</p> <p>○ 実態調査で、児童がどこを紹介したいと思っているのか、把握しておく。</p> <p>○ 紹介したいと思っている場所やものをミニポスターとして教師が作成しておく。</p> <p><b>視点3</b> 見出しや写真は教師が準備しておき、児童に自分が選んだ紹介したい場所を表す英語を書き写させる。</p> <p>○ 自分の紹介したい場所を友達に伝え、上手く伝わったらシールを貼るよう指示をする。</p> <p>○ 今日の活動でできるようになったことや友達のよかったところ、自分の発表の感想等を振り返りカードに記入させる。</p> 
--	--

エ 第3時の検証結果

視点	検証結果（◎成果、▲課題）
視点1 指導計画の工夫	◎ 本時までに、2単位時間と2回の短時間学習を使い、児童は、十分に音声で慣れ親しむことができていた。そのため、文字を取り扱うタイミングとしては適切であった。
視点2 アルファベットのもつ音への気付きと指導	◎ ジングルは、回数を重ねれば重ねるほど正しく発音することができるようになった。 ▲ ジングルをa～zまで全て取り扱くと4分弱要するため、1単位時間の取り扱いについては今後も研究していく必要がある。
視点3 音声と文字を結び付ける活動	◎ 文字を取り扱う活動（「キーワードゲーム」）は、児童は無理なく取り組み、楽しく活動できており、音声で十分に慣れ親しんだ語句と文字を接続する手立てとなると考える。 ◎ キーワードゲームで、キーワードをカテゴリーや文字に変えることで、児童の目が自然と絵カードの文字に集中していた。 ▲ 競争型のゲームでは、児童が勝負にこだわり、しっかりと聞けなかったり繰り返して発音しなかったりする姿が見られた。文字を取り扱う場合は協力型のゲームを取り入れていくことも大切だと考える。 ▲ ミニポスターづくりの際に、十分に音声で慣れ親しんでいない表現について文字を書かれたものを与えたところ、児童は発表の際に、文字ばかりを見ていた。文字は音声で十分に慣れ親しんだ後、書かせる必要がある。
視点4 文字提示の工夫	◎ キーワードゲームを行った際に、黒板に文字の大きな絵カードを提示していたところ、児童は活動を進める上での手掛かりとしていた。

(5) 授業の実際：長時間学習（第4時）

ア 本時の展開に当たって

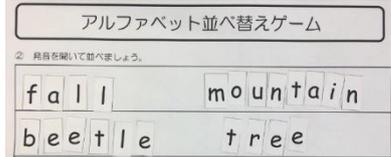
前時までには児童は、地域にある建物や場所、植物、生き物を表す英語や、英語で紹介する表現に、音声で十分に慣れ親しんでいる。また、音声で十分に慣れ親しんだ語句と、文字を接続することを目的とした活動に取り組んだ。

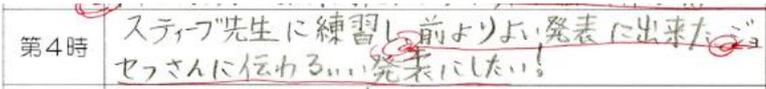
本時は、ALTと一緒に授業を行う。めあての確認後、パズルゲームに取り組む。発音や「音読み」、単語の意味を聞き、ばらばらに並べてある文字のカードを並べ替え、単語を作る活動を通して、音声と文字の接続を図る。その後、発表の練習では音声で行う。十分に慣れ親しませた後、グループ毎に紹介文の練習をさせる。ALTに発表をし、発表の内容について感想を求める。そして、より印象に残る発表にするためには、文字が有効であるというアドバイスしてもらい、児童に相手に最も伝えたいことを書き写させて、ポスターに貼らせる。その後、第5時の発表に向けて、再度練習する。なお、単元終末のコミュニケーション場面を充実させるため、本授業は第4時の45分授業と15分短時間授業を組み合わせた60分授業として実施する。

イ 本単元に関する主な単語や表現

fall, shrine, rice field, mountain, river, forest, wisteria, rice, tea, firefly, beetle, hot spring, road, swimming fishing, jogging, cycling, hiking, driving, You can see/eat/drink/enjoy～. Nice to meet you. We have～. Welcome to Nakatsugawa. We like my town. Thank you for listening.

ウ 実際

活動内容	教師の働き掛け（視点 音声と文字の接続）
1 挨拶 2 めあて 中津川紹介の練習をしよう。	○ 簡単な挨拶を行い、楽しく学習できる雰囲気高める。 ○ 単元計画表を確認させ、めあてを焦点化する。 <b>視点4</b> 絵カードは文字が大きく書かれたものを使用する。
3 ゲーム① ・ パズルゲーム ア「音声→文字」「文字→音声」の接続 「音読み」を聞いて並べる イ「音声→文字」「文字→音声」の接続 発音を聞いて並べる ウ「意味→文字」の接続 意味を聞いて並べる 	○ 机上にばらばらに並べてある文字を用意する。 ○ 発表するグループ毎に取り組ませる。 ○ アはALTに発音してもらい、HRTは児童の補助をする。 <b>視点3</b> 音声と文字を接続することを目的としている。 【ア 「音声→文字」「文字→音声」の接続を図るパズルゲーム】 ALTの「音読み」を聞き、文字を並べ替える。 (例) [f][a][r][e][s][t] : <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">f</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">o</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">r</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">e</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">s</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">t</span> ○ イはALTに発音してもらい、HRTは児童の補助をする。 <b>視点3</b> 音声と文字を接続することを目的としている。 【イ 「音声→文字」「文字→音声」の接続を図るパズルゲーム】 ALTの発音を聞き、文字を並べ替える。 (例) “tree” : <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">t</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">r</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">e</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">e</span> ○ ウはHRTが問題を出し、ALTは児童の補助をする。 <b>視点3</b> 意味と文字を接続することを目的としている。 【ウ 「意味→文字」の接続を図るパズルゲーム】 HRTが出す問題（意味）を聞き、文字を並べ替える。 (例) 「神社」 : <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">s</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">h</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">r</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">i</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">n</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">e</span>
4 チャンツ Hello. My name is ～. Welcome to Nakatsugawa. We like my town. We have ～. You can ～. Thank you for listening.	○ ALTの発音に続いて、リズムよく発音を繰り返す。 ○ 発表の内容や流れのみを日本語で黒板に掲示し、どのように発音するかは児童と一緒に考え、練習していく。
5 練習①	○ グループ毎に練習をさせる。声の大きさやジェスチャー、表情、間等を工夫するよう指示する。

<p>6 発表①</p> <p>7 練習②</p> 	<p>○ ALTに発表した後，ALTから称賛とアドバイスをもらう。</p> <p><b>視点3</b> よりよい発表，より印象に残る発表にするために，文字を示すことが有効であることをアドバイスしてもらう。</p> <p><b>視点3</b> 自分たちが国際交流員に最も伝えたいことを，四線付きの吹き出しに選んで書かせる。</p> <p>○ HRT，ALTは各グループを回り，文字を書く補助をしたり文字が書けたことを称賛したりする。</p> <p>○ 書いた文字をポスターに貼ったグループは，発表に向けて再度練習する。</p>
<p>8 振り返り</p>	<p>○ 今日の活動でできるようになったことや友達のよかったところ，自分の発表の感想等を振り返りカードに記入させる。</p> 

エ 第2時の検証結果

視点	検証結果（◎成果，▲課題）
<p><b>視点2</b> アルファベットのもつ音への気付きと指導</p>	<p>◎ パズルゲームは，グループ毎に取り組みさせたことで，児童に無理のない活動となった。1文字1文字をつなげて単語を作る活動では，児童が黒板の絵カードの文字と，カードを見比べながら進めていた。これらのことから，二つの活動は，音声で十分慣れ親しんだ語句と，文字を接続する手立てとなると感じた。</p> <p>◎ 児童が書きたいと思うことを書かせる活動は，児童にとって無理なく取り組むことができ，音声で十分慣れ親しんだ語句と，文字を接続する手立てとなると考える。</p>
<p><b>視点3</b> 音声と文字を結び付ける活動</p>	<p>◎ 練習の時間を十分に確保することで，これまでのコミュニケーションでは取り扱わなかった，文字を書く時間を設けることができ，児童の発表は，より豊かなものとなっていった。単元終末のコミュニケーションを行う場面だけでなく，コミュニケーションに向けて練習する時間としても長時間学習が有効であることが分かった。</p> <p>◎ 60分授業は，児童にとって無理なく活動できるものであった。</p> <p>▲ 60分授業を行う際は，ゲームや書く活動だけにせず，バランスよく活動を設定することが必要である。</p>
<p><b>視点4</b> 文字提示の工夫</p>	<p>◎ 絵カードに記載した文字や児童用絵カードの裏に四線上に書かれた文字は，児童が書き写す活動の際に手掛かりとなる。</p>

(6) 授業の実際：第5時

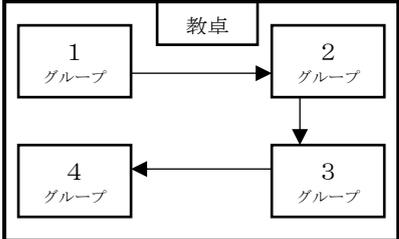
ア 本時の展開に当たって

本時は，最終時ということで，単元の目標である，霧島市の国際交流員に自分たちの町を紹介する時間である。ALTからのアドバイスを基にポスターの修正をしたり発表の仕方を工夫したりし，自分たちの思いをより豊かに伝え合う活動となることを目指す。発表の形態をポスターセッション形式とし，発表する機会が複数回になるようにしたい。発表後は，国際交流員から感想をもらい，達成感を味わわせたい。

イ 本単元に関する主な単語や表現

fall, shrine, rice field, mountain, river, forest, wisteria, rice, tea, firefly, beetle, hot spring, road, swimming fishing, jogging, cycling, hiking, driving, You can see/eat/drink/enjoy～. Nice to meet you. We have～. Welcome to Nakatsugawa. We like my town. Thank you for listening.

ウ 実際

活動内容	教師の働き掛け (視点 音声と文字の接続)
<p>1 挨拶</p> <p>2 めあて</p> <p>ジョセフさんに中津川を紹介しよう。</p> <p>3 アクティビティ①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流員の自己紹介</li> </ul> <p>4 練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ毎に準備をする。</li> </ul>	<p>○ 簡単な挨拶を行い、楽しく学習できる雰囲気高める。</p> <p>○ 単元計画表を確認させ、めあてを焦点化する。</p> <p><b>視点4</b> 絵カードは文字が大きく書かれたものを使用する。</p> <p>○ 国際交流員に簡単な自己紹介をしてもらう。</p> <p>○ 事前に打合せをし、できるだけ児童が本単元で学習した表現を使ってもらう。</p> <p>○ ポスターセッション形式で発表する旨を伝え、場の準備をさせ、グループ毎に発表の最終チェックをさせる。</p>
<p><b>【発表の場の設定】</b></p>  <p>5 発表①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語を使って紹介をする。</li> <li>発表が終わったら、国際交流員からの質問に答える。</li> </ul>   <p>6 発表②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お互いのグループの発表を見合い、感想を交流し合う。</li> </ul>	<p><b>【最終チェックの際の児童の発言】</b></p> <p>S1: 「自己紹介の後、何かもう少し付け加えたいね。」</p> <p>S2: 「好きなものとか言えそうだね。」</p> <p>S1: 「I like ～. だったね。I like baseball.かな。」</p> <p>S2: 「ジェスチャーも加えたらもっと伝わりやすくなるよ。」</p> <p><b>視点3</b> 第4時で書かせた文字の入ったポスターを使って発表の練習をさせる。</p> <p>○ 国際交流員だけでなく他の教員等に対しても発表し、感想、質問をしてもらう。</p> <p>○ 教師は時間の管理をし、各グループの様子を観察する。発表と発表の間に、よかったところや改善点など、次の発表に生かせそうなことを伝える。</p> <p><b>【発表間に教師がした助言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「写真を指差していたグループと文字を指差していたグループがありました。ジョセフさんに説明する時はどちらがよいかな。」</li> <li>「伝えたいことを言うときにゆっくりとしゃべっていましたね。」</li> <li>「ジョセフさんからの質問にグループで相談し合って答えることができていましたね。」</li> </ul> <p>○ 国際交流員には英語で簡単な質問をってもらう。児童も、できるだけ自分たちの力で伝えるよう指示する。</p> <p><b>【国際交流員 (C:CIR) の質問と児童の回答 (一部)】</b></p> <p>C: "Is this the tall waterfall or short waterfall?"</p> <p>S: "Tall."</p> <p>C: "Did you go to this waterfall?"</p> <p>S: "Yes."</p> <p>C: "Who wrote these letters?"</p> <p>S: "This is Koki. This is Masa. This is me."</p> <p>C: "Wow. Very nice. Easy to understand. Thank you."</p> <p>○ 互いの発表を聞き合い、第4時との発表の違いについて発表し合わせる。</p>
<p>7 振り返り</p>	<p>○ 国際交流員に今日の発表について総括してもらう。</p> <p><b>視点3</b> 国際交流員にポスターの文字について、発表を聞く際の理解に役立ったということを全体に向けて言ってもらおう。</p> <p>○ 今日の活動でできるようになったことや友達のよかったところ、自分の発表の感想等を振り返りカードに記入させる。</p>

エ 第5時の検証結果

視点	検証結果 (◎成果, ▲課題)
視点1 指導計画の工夫	◎ 最終時に、コミュニケーションの相手を具体的に設定したことで、児童は高い意欲を維持し続けたまま第5時を迎えることができた。
視点3 音声と文字を結び付ける活動	◎ 練習の時間を十分に確保したことで発表に自信が付き、更に自分たちで発表する表現を加えたり、ジェスチャーや指差し等のパフォーマンスが充実したりと発表が豊かになった。 ◎ 発表の際に、文字を指差して国際交流員に理解を促していた。相手に配慮し、よりよく伝わるようにするための工夫であると言える。 ◎ 発表後、国際交流員から児童に対して、文字が発表を正しく理解することに役立ったことを伝えてもらったことで、児童は文字のよさを実感し、達成感を感じていた。
視点4 文字提示の工夫	◎ 絵カードに記載した文字や児童用絵カードの裏に四線上に書かれた文字は、児童が、書き写す活動の際に手掛かりとなる。

(7) 検証授業Ⅱ後の児童の変容

検証授業Ⅱ後も、児童の外国語に対する意欲は高い状態を維持した(図15)。児童の外国語学習に対する意欲が下がっていないことから、音声と文字の接続を図る指導を丁寧に行えば、児童の意欲を下げることはないと言える。

また、図16は検証授業Ⅱ後の、英語の音声聞いて文字を選ばせることの結果である。検証授業Ⅱで取り扱った英単語に関して、児童が音声と文字を結び付けることができているかについて調査した。その結果、音声を聞いて文字を選ぶことを92.7%ができていた。このことから、本検証授業を通して、児童は、音声と文字の接続がなされたと言える。

さらに、検証授業Ⅱの授業を通して、児童の小文字の認識が高まった(図17)。検証授業Ⅰ後にとった調査では、児童は小文字の57.3%を何も見ずに書くことができていた。今回の検証授業Ⅱ後の調査では、77.6%を何も見ずに書くことができた。これは、検証授業Ⅱで小文字の形に着目する活動から、小文字を書き写す活動、音声で十分に慣れ親しんだ語句と文字を接続する活動、自分が書きたいと思うものを書き写したり、選んで書いたりする活動と細かな段階を踏んだ文字指導の成果であると考えられる。

これらのことから、次の2点のことが言えると考えられる。まずは、読んだり書いたりする目的をもたせた文字の指導は、児童の意欲を下げものではないということ。次に、細かな段階を踏んだ文字の指導が、アルファベットの認識を高め、アルファベットの認識が高まることで、音声と文字が更に接続されやすくなるということである。



図15 検証授業Ⅱ後における外国語活動の授業に関する意欲

文字	正答(人)
tea	9
road	10
wisteria	11
beetle	10
fall	11
mountain	11
tree	9
rice	11
rice field	10
hot spring	11
fire fly	9
river	9
rice cake	11
shrine	11
forest	11
正答率	92.7%

図16 検証授業Ⅱ後における音声と文字の接続の状況

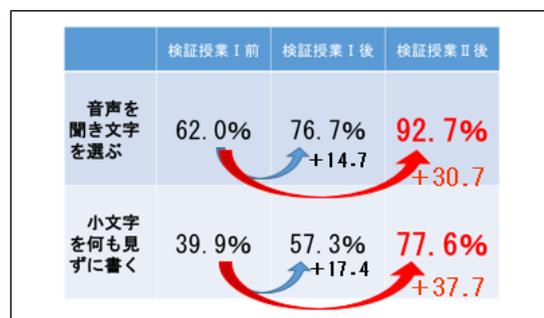


図17 検証授業を通じた児童の変容

(8) 検証授業Ⅱを通した自分の思いをより豊かに伝え合う児童の姿

児童の言動	より豊かな伝え合いとなった部分
<p>階段に掲示した文字を見て、ABCの歌を口ずさんだり、友達同士歌ったりしながら、階段を上っていた。</p>	<p>文字に慣れ親しむ活動や、文字を書く活動、音声と文字を接続するような活動を通して、文字に対する興味や関心が高まっている。</p>
<p>キーワードゲームで、ゲームを進めるに当たり、絵カードの文字に注目していた。(第3時)</p>	<p>音声で十分に慣れ親しんだ語句と、文字を接続しようとする態度が育ってきている。</p>
<p>振り返りカードに、学習したことを表現する際に英語で書き込んでいた。(第3時)</p>	<p>音声で十分に慣れ親しんだ語句が、文字と接続されたことにより、児童が学習した表現を英語で書きたいという思いを高めている。</p> 
<p>国際交流員に自分たちの発表を、より正確に理解し、印象付けるために、ポスターに文字を挿入するという意見を出していた。(第4時)</p>	<p>外国語で他者とコミュニケーションを行う上で、相手に十分配慮した発想をすることができている。</p> 
<p>国際交流員への発表の際に、発表ポスターに記入した文字を指差しながら発表していた。(第5時)</p>	<p>音声で十分に慣れ親しんだ語句と文字の接続を図ったことにより、これまでの音声や絵、ジェスチャーでの発表に加え、文字を活用して、自分たちの思いをより深く理解してもらおうと工夫している。</p> 

(9) 検証授業Ⅱを通した児童の感想

ア アルファベットのもつ音の指導について

- ・ 音楽と一緒にだったので、リズムに乗り楽しくできた。
- ・ 覚えやすかった。音声と同時に絵が出てくるから、何がどれかよく分かった。
- ・ 歌に合わせて発音したので早く覚えることができた。

イ 音声と文字を接続する活動について

- ・ 並べ替えをしたとき、自分が文字をあんなに分かっていて驚いた。
- ・ 小文字探しでは、面白いところに文字があり、分からなかったのが逆に楽しかった。

ウ 文字を書く活動について

- ・ 英語を学習しているという気になれた。文字を書いて覚えたので読めるようにもなって、うれしかった。
- ・ ほとんど先生に書いてもらっていたので、次は自分で書けるようにしたい。
- ・ あまり文字を書かないので難しかったけど、音に分かれればなんとなく書けた。

エ 国際交流員との交流について

- ・ できるだけ英語で話そうとした。今までの授業を思い出しながら頑張って発表した。
- ・ 英語でたくさんの質問をされ緊張した。いつもとは違う気持ちだったけど、いつも通り楽しく活動できた。
- ・ もし中津川で外国人に会ったときは、今回習ったことを生かして中津川のよいところを教えて案内してみたい。

## IV 研究のまとめ

### 1 研究の成果

#### (1) 音声と文字の接続について

- ・ 児童は、文字を取り扱った活動に対して抵抗を感じることなく取り組み、振り返りカードには「楽しかった」や「またやってみたい」といった、活動に対して意欲的な意見を記入していた。
- ・ 単元を通して、継続して文字に触れさせることで、児童の文字の認識が高まっていった。
- ・ 文字の「音読み」に対して、児童は興味をもっていた。
- ・ 文字のもつ「音」に気付かせ、「音読み」の指導を行ったことで、児童は、単語の頭文字を予想したり、音声を頼りに文字を並べ替えたりすることができた。
- ・ 文字を取り扱った活動を行うことで、「自分がこんなにアルファベットを知っているとは思わなかった」と喜びを感じ、文字を使って伝えたいという意欲をもっていた。
- ・ 文字を取り入れて発表したことについて、国際交流員から称賛されたことで、思いをより正確に伝えたり相手にとって印象深いものにしたりできるということを児童は味わっていた。

#### (2) 小学校外国語の授業づくりについて

- ・ 導入場面で、単元終末に行うコミュニケーションの目的や場面、状況を理解させた。このことにより、児童全員が単元の目標を確認し、単元全体の見通しをもっていた。また、児童は、最終時に向けて各時間、何を学ぶのかを明確にして、言語活動等を行うことができていた。
- ・ 単元の終末での振り返りでは、これまで活動の振り返りのみが書かれていたが、本検証授業では、「もっと言えるようになりたい」、「もっと書けるようになりたい」といった、これまでより意欲を高めている児童が多くいた。
- ・ 短時間学習・長時間学習を意図的に取り入れることは、単元の導入をスムーズにしたり、外国語に触れる機会を増やせたり、十分なコミュニケーションの時間が確保できたりするなど、外国語教育にとって有効な手立てになる。

#### (3) 自分の思いをより豊かに伝え合う児童の育成について

- ・ 単元終末に発表する相手を ALT や国際交流員としたことで、児童は伝える相手を強く意識して、発表の内容を考えていた。
- ・ 発表に向けて児童は、印象に残したいことを文字で書き写した。そのことにより、これまでは見られなかった、発表の際に国際交流員に対して文字を指差しながら理解をしてもらおうとする姿が見られた。
- ・ 国際交流員に向けて発表するだけでなく、その場での国際交流員からの質問や意見を熱心に聞き、グループで協力し合って答えていた。このことは、児童が相手のことを考え、自分たちの思いをよりよく伝えたいという思いをもったからだと考える。つまり、児童はこれまでの外国語活動でのコミュニケーションを更に豊かにし、伝え合うことができていたと言える。

### 2 研究の課題

- (1) 言語活動を行う際に、音声で十分慣れ親しんでいない状態で、文字を書かせたり書かれたものを与えたりすると、児童は文字に頼りきりになり、文字から目が離せないという状況になる傾向がある。小学校外国語教育において、児童に文字で書かれた語句や表現を扱わせる際には、音声で十分に慣れ親しませた後が相応しいと考える。
- (2) 段階的に文字を取り入れたことで、児童の文字に対する抵抗はなかったが、1単元での習得は不可能である。定着を図るためには、年間を通した継続的な指導が必要である。
- (3) 短時間学習・長時間学習については、教育課程の整備や校内体制の構築と併せて、年間の指導を見通して行う必要がある。

## 引用・参考文献

### 〈引用文献〉

- 1) 中村 典生 「小中を連携させる効果的な文字指導に関する研究」  
2015年 公益財団法人 日本英語検定協会 委託研究

### 〈参考文献〉

- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説外国語活動編』 2008年 東洋館出版社
- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説外国語編』 2017年
- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説外国語活動編』 2017年
- 文部科学省 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』 2017年
- 白畑 知彦, 富田 祐一, 村野井 仁, 若林 茂則 著  
『英語教育用語辞典』 1999年 大修館書店
- 影浦 攻 編 『小学校英語活動 指導のアイテム小事典』 2002年 明治図書
- 村野井 仁 著 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』 2006年 大修館書店
- 松香 洋子 著 『フォニックスってなんですか?』 2008年 mpi
- アレン玉井 光江 著 『小学校英語の教育法 理論と実践』 2010年 大修館書店
- 菅 正隆 編著, 大牟田市立明治小学校 著  
『外国語活動をもっと楽しく知的にする 英語ゲーム&教材アイデア60』  
2010年 明治図書
- 岡 秀夫, 金森 強 編著  
『小学校外国語活動の進め方「ことばの教育として」』 2012年 成美堂
- 白井 恭弘 著 『英語教師のための第二言語習得論入門』 2012年 大修館書店
- 樋口 忠彦 (代表), 加賀田 哲也, 泉 恵美子, 衣笠 知子 編著  
『小学校英語教育法入門』 2013年 研究社
- 直山 木綿子 編 『小学校外国語活動のツボ』 2014年 教育出版
- 酒井 英樹 著 『小学校の外国語活動基本のき』 2014年 大修館書店
- 高橋 美由紀, 柳 善和 編著  
『小学校英語教育 授業づくりのポイント』 2015年 ジアース教育新社
- 吉田 真理子, 田近 裕子 編著  
『生きる力を育む初等英語教育 ー津田塾大学からの提言ー』 2015年 朝日出版社
- 佐藤 臨太郎, 笠原 究, 古賀 功 著  
『日本人学習者に合った効果的英語教授法入門』 2015年 明治図書
- 田中 真紀子 著 『小学生に英語の読み書きをどう教えたらいいか』 2017年 研究社
- 大城 賢, 萬屋 隆一 編著  
『小学校英語早わかり 実践ガイドブック』 2017年 開隆堂
- 大城 賢, 萬屋 隆一 編著  
『はじめての小学校外国語活動 実践ガイドブック』 2017年 開隆堂
- 酒井 英樹, 滝沢 雄一, 亘理 陽一 編著  
『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンス』 2017年 三省堂
- 樋口 忠彦, 高橋 一幸, 加賀田 哲也, 泉 恵美子 編著  
『小学英語指導法事典 教師の質問112に答える』 2017年 教育出版

長期研修者 [福森 一真]

担当所員 [別枝 昌仁]

#### 【研究の概要】

本研究は、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現と文字とを円滑に接続することで、児童のコミュニケーションが、より豊かな伝え合いとなることを目指した研究である。

より豊かな伝え合いとなるためには、児童にコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解させ、目的達成を目指した言語活動等を設定し、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現と、文字を細かな段階を踏んで接続することが重要である。

その結果、コミュニケーションの相手に配慮する態度が育ち、十分に慣れ親しんだ外国語の知識を活用しながら、自分の考えを形成、再構築して、よりよく相手に伝える児童の姿が見られた。

#### 【担当所員の所見】

本研究は、平成32年度から導入される新教科外国語科の全面实施を見据え、外国語を使って自分の考えや気持ちをより豊かに伝え合う児童を育成することを目指すものである。これまでの小学校外国語教育の成果と課題を踏まえて、特に音声と文字の接続に着目して実践研究を行っている。基礎研究を丁寧に行い、言語習得の理論に基づいて指導内容の配列や指導上の留意点をまとめ、児童の実態に即しつつ、授業における教師の手立ての在り方を詳細に提案した点に意義があると考えます。

また、検証授業においては、外国語教育の学習過程に即した単元の指導計画に基づき、短時間・長時間授業を実施したり、学校内外の人材やICTの活用を図ったりしており、多くの学校における中学年外国語活動や高学年外国語科の授業づくりに示唆を与えるものである。

今回は、児童の実態を踏まえ、文字（アルファベット）を中心に検証を行った。今後は語句や文に焦点を当てて検証を行うことで、更に深まりのある実践研究になるものと期待する。